

◎ 評価対象分野・施策の方針

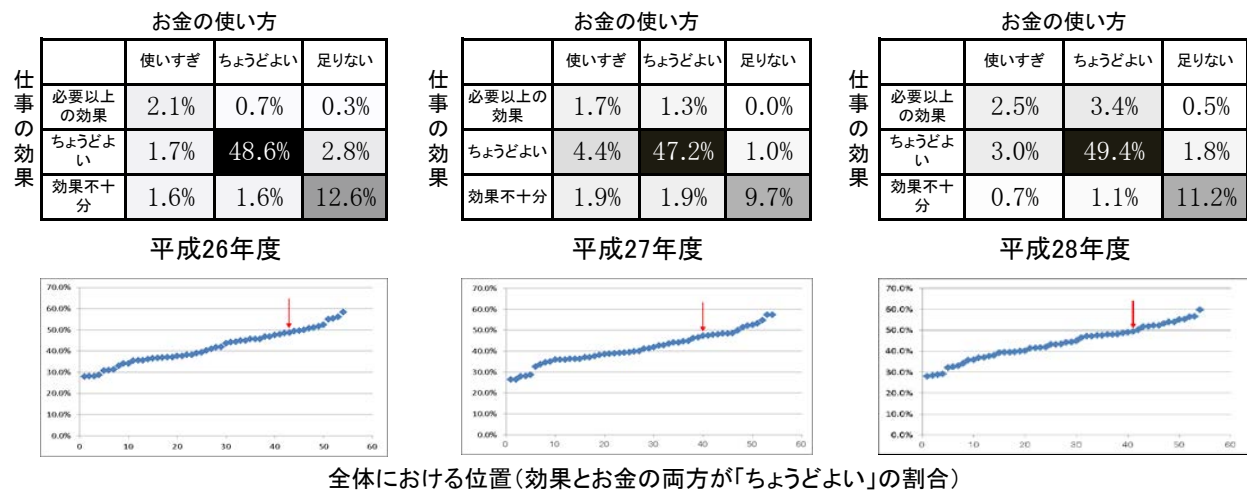
総合計画上の位置付け	分野	学校教育	施策の方針	学校施設の整備
------------	----	------	-------	---------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	22.1%	平成27年度	25.3%	平成28年度	21.3%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



<妥当性の分析>

平成28年度の結果では、仕事の効果、お金の使い方ともに、「ちょうどよい」が49.4%と最も高いポイントであり、市民の半数近くが市の取り組みとその予算に対し、当施策は妥当と考えていると分析できる。

平成26～28年度の経年変化においても、傾向に大きな変化は見られないが、お金の使い方は、「ちょうどよい」が徐々に増加傾向にあり、適切な予算執行ができていていると分析できる。しかしながら、「取組を知らない・わからない」人が20%を超えていることから、より一層市民への情報発信が必要と考える。

また、今後の進め方では、3箇年とも「もっと力を入れるべき」が20%を超え、平成28年度はお金の使い方が「足りない」、効果「不十分」が11.2%であり、もっと力を入れるべきとの市民意識が伺える。

今後については、各学校において計画している施設整備を確実に実施し、児童・生徒が安全・安心な状態で教育を受けられる環境を整えていく。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	20.1%	51.2%	2.1%	26.6%	100.0%
平成27年度	20.3%	45.9%	2.7%	31.0%	100.0%
平成26年度	23.2%	47.6%	1.7%	27.5%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

- ①大船中学校の改築工事を進めるとともに、中学校普通教室への冷房設備設置及び小学校普通教室への設置準備作業を進める。(教育-18、20)
- ②耐震性に課題のある深沢、玉縄、今泉小学校の給食棟耐震改修工事を行うとともに、熊本地震のような大規模地震に対する防災対策について、文部科学省の動向を注視し必要に応じて対応を図る。(教育-18、20)
- ③トイレ改修工事、特別支援学級改修工事等を進める。(教育18、20)

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
教育-18	小学校施設整備事業	122,150	185,441	125,149	188,429	0.4	0.4	a	A
教育-19	小学校防災対策事業	16,146	36,716	16,896	37,463	0.1	0.1	d	C
教育-20	中学校施設整備事業	1,992,145	2,327,364	2,004,140	2,340,063	1.6	1.7	a	C

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

- ①第一小学校外3校の冷房設備設置工事設計を行った。(教育-18)
 ①大船中学校改築工事及び実施に伴う工事監理委託を行った。大船中学校校庭整備工事を28年度29年度の2箇年の継続事業として開始した。大船中学校の改築に伴い、仮設校舎を賃借した。(教育-20)
 ①御成中学校外5校の冷房設備設置工事を行った。(教育-20)
 ②深沢小学校、玉縄小学校及び今泉小学校の給食棟耐震改修工事を行った。(教育-19)
 ③第一中学校外7校の給食受入室改修工事を行った。(教育-20)
 ③富士塚小学校のトイレ改修工事設計を行った。小坂小学校のトイレ改修工事(I期)を行った。植木小学校の特別支援学級教室改修工事を行った。関谷小学校校舎外壁(南東面)改修工事を行った。御成小学校の児童数増に対応するため、仮設校舎を賃借した。鎌倉市立御成小学校旧講堂保存活用計画を策定した。(教育-18)

【実施できなかった事業とその理由等】

(4) 平成28年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ①・②・③老朽化の進む学校施設及び設備について、限られた予算の範囲で、学校施設の維持保全・延命化に努めている中で、ほぼ計画どおりに施設整備事業を実施した。(教育-18、19、20)

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

- ①・②・③耐用年数を超過し、老朽化の進行する学校施設について、鎌倉市公共施設再編計画との整合性を考慮しながら、改築や大規模改修等の実施について検討する。(教育-18、19、20)
 ①・③また、健康で安全な学習環境を構築するため、洋式便器、多目的トイレ及びドライフロアの拡充など快適なトイレづくりを進めるとともに、普通教室への冷房設備設置を進める。(教育-18、20)
 ②今後、熊本地震のような大規模地震に対する防災対策について、文部科学省の動向を注視し、対応を図っていききたい。(教育-19)

4 平成29年度の目標

- ・平成29年度までに、中学校普通教室への冷房設備設置を完了する。
- ・小坂小トイレ(1系統)・富士塚小西棟トイレ改修工事をしゅん功する。
- ・熊本地震のような大規模地震に対する防災対策について、文部科学省の動向を注視し必要に応じて対応を図る。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	教育-18	事業名	小学校施設整備事業								
指標の内容	普通教室への冷房設備設置					単位	校	指標の傾向		備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
計画どおり平成31年度までに小学校全16校の普通教室に冷房設備を設置する。	目標値				4	10	16				
	実績値										
	達成率										

整理番号	教育-20	事業名	中学校施設整備事業								
指標の内容	普通教室への冷房設備設置					単位	校	指標の傾向		備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
計画どおり平成29年度までに中学校全8校(改築した大船中を除く)の普通教室に冷房設備を設置する。	目標値			6	8						
	実績値			6							
	達成率			100.0%							

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・大規模災害が多い現在、鎌倉もいつ災害が発生するか解らない。東日本大震災、熊本地震のような大規模地震に対する防災対策として、老朽化の進む学校施設に対し限られた予算の範囲で、学校施設の維持保全・延命化が求められる。

・普通教室への冷房設備設置については、平成31年度までに小中学校全校に設置できるように計画するとあるが、小学校に対して本当に必要なか疑問であり、必要性が明らかになっていない。

・目標に対してエコスクール推進に向けての取組が見当たらない。

・「冷房設備の設置」に加え、「快適なトイレづくり」についても注力することが求められる。

提言

・常に施設整備への配慮が重要であり、やらなくてもいい工事、やらなくてはならない工事を正しく選別し、計画的に実施してほしい。東京オリンピックを控え、工事価格、原料価格ともに急騰していることから、緊急性の低い事業については、適正価格にもどってから実施すべきである。

・エコスクールが省エネ対策を施した学校という位置付けなら、エアコンも含め長いスパンで考えた投資をしてほしい。目標を設定し、ハード面での整備の必要性があれば、施策・事業を展開すべきである。鎌倉市の環境を活かした教育にも有効な取組の設定をしても良いのではないのか。

指摘への対応、コメント等

学校施設の耐震対策については、平成30年度に天井改修工事を計画している第二中学校体育館を除き、改修工事が終了していますが、熊本地震のような大規模地震に対する防災対策について文部科学省の動向を注視していくとともに、平成29、30年度の2箇年で学校施設の老朽化の状況を調査し、改築や大規模改修等施設整備を検討します。

学校環境衛生基準において、温度は「10℃以上、30℃以下であること」、相対湿度は「30%以上、80%以下であること」が望ましいとされており、近年、夏場の教室内は高温多湿であることから、児童の熱中症等健康被害が懸念されています。児童の健康に配慮し、教室の冷房化による学習環境の改善を図る必要があります。

学校改築や大規模修繕に当たっては、エコスクール推進の視点を取り入れて計画していきます。

トイレ改修工事については、以前は隔年で1校実施していたが、平成29年度から31年度までの実施計画において毎年2校ずつ実施するよう計画し、トイレ改修の加速化を図ります。

提言に関するコメント等(総論)

昭和40年代から50年代の児童生徒急増期に建設した学校施設の老朽化対策が喫緊の課題となっています。今後どの程度の期間使用可能か、改築しなければならないのか、大規模改修などにより長寿命化対策を図れるのか等を検討し、コストにも配慮しながら児童生徒にとって望ましい教育環境が確保できる学校施設の整備を計画していきます。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・冷房設備の設置工事、トイレの改修工事など、老朽化の進む学校施設及び設備について、限られた予算の範囲で、計画どおり事業を実施した。
- ・老朽化の進む学校施設及び設備について、学校施設の維持保全・延命化に努めている中で、ほぼ計画どおりに施設整備事業を実施した。
- ・評価委員からの指摘や提言に対する対応及びコメントが具体的かつ的確であり、今後の取組に期待したい。

評価の内訳					⇒	委員会の評価
取組	↑	4	↓	0		↑
効果	○	4	△	0	—	4
						○

《課題》

- ・国の動向以前に鎌倉の自然、気象条件、地形に着眼している環境整備という印象が薄い。
- ・東日本大震災、熊本地震のような大規模地震に対する防災対策が必要であるが、老朽化の進む学校施設に対し限られた予算の範囲で、学校施設の維持保全・延命化は課題である。
- ・普通教室への冷房設備設置については、平成31年度までに小中学校全校に設置できるよう計画とあるが、小学校に対して本当に必要なのか。
- ・昨年と引続き、エコスクールに関する取組の記載がないのが残念である。

《提言》

- ・大規模地震に対する防災対策は即、対応できるよう図ってほしい。
- ・限られた予算の範囲で、学校施設の維持保全・延命、プライオリティを考慮しながら効率的な整備が必要である。
- ・時代の流れからも、設備によらない、生徒たちへのエコ意識の育成という観点からの環境整備(グリーンカーテンを作る、、みたいな)、取組を他の施策と並行して行ってもよいのではないか。
- ・教育施設の維持管理・充実は絶対に必要なことであるため、それをどの様に効率的、経済的に行っているかを、明記すべき。
- ・LGBTの子供達への施設利用が急務である。環境設備はプライオリティを十分考慮した順であってほしい。